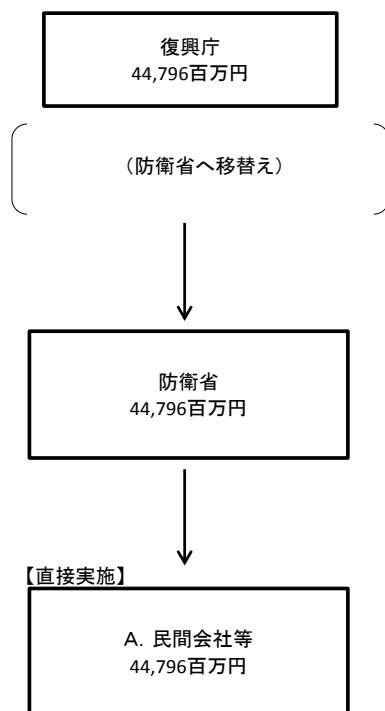


平成25年行政事業レビューシート (復興庁)							
事業名	被災した装備品等の復旧(復興関連事業)		担当部局庁	復興庁	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成25年度～平成29年度		担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)	参事官 大野 秀敏		
会計区分	東日本大震災復興特別会計		政策・施策名	復興施策の推進 東日本大震災からの復興に係る施策の推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東日本大震災により被災した装備品等の復旧を図る。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	東日本大震災により航空自衛隊松島基地等において、航空機などの自衛隊の装備品等が被災した。本事業は、戦闘機(F-2)の修復等、これら被災した装備品等の取得、修理等を行うものである。 ※本事業は、25年度から復興庁で一括計上し、防衛省で執行するものである。 (平成24年度防衛省 事業番号:5.215.273.277.284.286.305.316.317.323.421.426.431)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		当初予算			44,796	17,101	
		補正予算			-		
		繰越し等			-		
	計			44,796	17,101		
	執行額						
執行率(%)							
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	東日本大震災で被災した装備品等を復旧し自衛隊の任務遂行に寄与する。自衛隊の任務は各種あるため、定量的に示すことは困難である。	成果実績					
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	被災した装備品等の取得、修理等を実施する事業件数	活動実績 (当初見込み)	件		( )	( )	( 33 )
単位当たりコスト	多数の事業を含むため、単位当たりコスト算出は困難であるが、実施する事業予算額/実施件数とした場合は、次のとおり。 1,357,450千円/件		算出根拠	実施する事業予算額/実施件数			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	武器購入費	0	85	各事業計画差による増▲減			
	通信機器購入費	4,887	0	・損傷航空機の修復(航空機修理費):▲25,723百万円			
	車両購入費	764	141	・各種器材等の取得(諸器材購入費):▲4,049百万円			
	諸器材購入費	4,982	933	・F-15フライト・シミュレーターの取得等(教育訓練費):▲1,813百万円			
	通信維持費	372	365	・UH-60Jの取得(航空機購入費):+4,771百万円 等			
	諸器材等維持費	218	267				
	航空機修理費	30,169	9,189				
	航空機購入費	1,591	6,120				
	教育訓練費	1,813	0				
計	44,796	17,100					

事業所管部局による点検						
	項目	評価	評価に関する説明			
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	被災した自衛隊の装備品等を速やかに復旧させ、大災害時に自衛隊が迅速かつ効果的に活動できる態勢を確保することは、ニーズが高く、優先度の高い事業と考えられる。また、本事業は、被災した自衛隊の装備品等の復旧に係る事業であり、国(自衛隊)にのみ実施可能な事業である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○				
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	本事業は、被災した自衛隊の装備品等の復旧に係る事業であり、真に必要なものに限定している。			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-				
	単位当たりコストの水準は妥当か。	-				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-				
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-				
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-				
	事業番号	類似事業名				所管府省・部局名
点検結果	<p>【必要性】自衛隊は、大災害時に、長期間、広範囲かつ大規模な救助活動や救援活動を担うこととされており、大災害時に自衛隊がこれらの役割を果たすためには、被災した装備品等を速やかに復旧させる必要がある。</p> <p>【効率性】例えば、修理が可能でコストの面でも効率的な場合には、使える部品を修理により再利用するなど、被災した自衛隊の装備品等が果たしていた機能を回復する上で、可能な限り効率的な方法で復旧を行う等の事業内容の精査を図った。</p> <p>【有効性】自衛隊による災害派遣活動は、国民の安心・安全にとって極めて重要な事業であり、自衛隊の装備品等を復旧することは、災害派遣活動が着実に進められることとなるので、有効な事業である。</p> <p>【総合評価】今回の予算により、被災した自衛隊の装備品等を速やかに復旧させ、大災害時に自衛隊が迅速かつ効果的に活動できる態勢を確保するために本事業が必要である。</p>					
外部有識者の所見						
-						
行政事業レビュー推進チームの所見						
-						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
-						
備考						
-						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年		平成23年		平成24年	

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



**資金の流れ**  
(資金の受け取り  
先が何を行っている  
かについて補足  
する)(単位:百万  
円)